

リアルタイム線量測定システムの配置の見直しに関する住民説明会（福島市）

議事録

日時：平成30年9月2日（日）13：30～

場所：ホテル福島グリーンパレス2階「瑞光の間」

議事

○南山総括調整官 始めさせていただきます。

私は、司会進行を務めます原子力規制庁の南山と申します。

原子力規制庁の出席者を紹介させていただきます。

武山監視情報課長、滝田補佐、石井技術参与、鈴木専門官、伊藤でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

座らせていただきます。

会場の皆様には、お忙しい中、御参加いただきましたこと、誠にありがとうございます。

また、福島市役所の皆様にも大変御協力いただき、ありがとうございます。

説明会の進め方につきまして、御案内を申し上げます。

まず、規制庁の武山課長のほうから、お手元の資料と正面のプロジェクターを用いまして説明させていただきます。その後、住民の皆様方から御意見、御質問をいただきたいと思っております。

御発言につきましては、マイクをお渡ししますので、着席のままマイクをお使いになり、お話しいただきたいと思っております。

本日の終了予定時刻は、会場運営の制約もありまして、15時30分までとさせていただきます。

なお、原子力規制庁としましては、この説明会の模様を記録いたしまして、後日、原子力規制委員会のホームページのほうに掲載をさせていただきます。あらかじめ御承知おきいただきたいと思っております。よろしゅうございますでしょうか。

では、説明のほうを監視情報課長のほうからお願いいたします。

○武山監視情報課長 福島市の皆様、こんにちは。私は原子力規制庁監視情報課長の武山と申します。

まず、御説明に入る前に、原子力規制庁、原子力規制委員会という組織について御紹介

をさせていただきます。

平成23年3月11日の福島原子力発電所の事故です。これを、事故の発生を教訓として、このような事故を二度と起こさないために、それまであった原子力規制組織を解体をして、新しく平成24年9月に発足をしたものでございます。

5人の有識者からなる委員で構成されておまして、その事務局として原子力規制庁というところがございます。我々、そこの原子力規制庁の人間なんですけれども、原子力規制委員会のお仕事ですね。これはご紹介しますと、まず原子力発電所、原子力施設の規制を行うということでございます。規制は法律に基づいて行うわけですけれども、規制基準に適合しているかどうかの審査をする、あるいは検査をするということによって、規制を行うということでございます。

それから、原子力発電所などで事故が起きたときに、その事故の対処をして、必要があれば住民の避難、一時移転、そういったものについての指示を出すということでございます。

それから、もう一つは、我々原子力規制庁の中の監視情報課という課なんですけれども、こちらは日本全国の放射線のレベルの監視を行っているところでございます。そういう組織でございます。

では、お手元の資料の3ページ目をお開きいただければと思います。

まず、はじめにでございますけれども、福島の事故の後、数多くのモニタリングポストを設置しております。今の現状、放射線量ですけれども、低くなってきているというところが結構多々ございます。そのような状況を考えたときに、今後、このモニタリングポストについて、どうしていこうかということについて我々は考えているところでございまして、今日、一つの提案をさせていただきますけれども、そのモニタリングポストに関して、住民の皆様がどのようにお考えになっているかということについて、今日お聞きをすることでございます。そのいただいた意見を踏まえて、我々のほうとしてどうすべきかということについて、また考えていきたいと、こういうふう考えているところでございます。

次のページをお開きいただければと思います。

放射線監視体制のデータです。

モニタリングポストは大きく分けて四つの種類がございます。

一つは、この赤いポツがいっぱいありますけれども、リアルタイム線量測定システム。

2,900台あまりあります。こちらは、学校、幼稚園、保育園といったところを中心についているものでございます。これは、そういういわゆる子どもが活動する施設の放射線量がどうなっているかということについて見ていくような形で設置をしているというものでございます。

それから、緑色のポツ、可搬型モニタリングポスト、570台あまりありますけれども、こちらは、この福島県全域の中長期的な放射線のレベルを把握をするということで、浜通り、中通りのほうは5kmメッシュ、それから会津のほうは10kmメッシュですけども、そのぐらいの間隔で置いているということでございます。

こちら可搬型ポストという名前になっていますので、元来はポータブルなので、好きなところに置いて、そこで測定をすると、こういうものなんですけれども、これは固定して置いているものでございます。固定をして、そこでもって置いているというものでございます。

それから、水準ポストというのが、青い四角で12台ありますけれども、こちらは日本全国、北は北海道から南は沖縄まで同様のポストを置いております。その全国のレベルを比較をするというために、この水準ポストというのを置いてございます。福島県内は12台ほどございます。

それから、監視ポストとありますけれども、39台。これは、右側のほうの円がございませうけれども、30km圏ですけれども、そこに大体置いているものでございまして、いわゆる福島第一、福島第二原発で何かあったときに、いち早くこれでもって検知をして対応をするというものでございまして、それが39台ありますということでございます。

次のページをお開きください。

福島市内にあるモニタリングポストの絵を示しているんですけども、左側にあるリアルタイム線量測定システムというのが学校などに置いているものでございまして、測定範囲としてBG～99.99 μ Sv/hとこう書いてありますけど、BGというのは自然放射線のエネルギーと言われているもので、大体0.1とかそのレベルだろうとお考えいただければ、0.1からそのぐらい。4桁の表示がされるというものでございまして、この表示自体は昼間の7時から夜の7時まで表示がされているものでございます。

それから、右側ですね。可搬型モニタリングポストですけれども、このような2種類のものが合計で20台ついております。

こちら測定範囲はBGからなんですけれども、10万 μ Gy/h、こういう値になっていまし

て、ちょっと左側の $\mu\text{Sv/h}$ と単位が違うんですけども、こちらは測っているものが空気吸収線量というのを測っております。これが、いわゆる空気に吸収されるエネルギーの値になりますけれども、それを測っています。

先ほど御紹介しました左側の $\mu\text{Sv/h}$ というのは、これはこの空気吸収線量に人への影響はどのぐらいかという度合いを勘案して換算しておるのが $\mu\text{Sv/h}$ という値なんですけども、ほぼ係数は同じ、値は同じ、1ぐらいなので、数字としては同じような数字だと考えていただいで結構です。

可搬型モニタリングポストも10万というところまで測れるので、広範囲な高いものまで測定ができるということでございます。

こちらの可搬型モニタリングポストについても、同じように表示がなされておりまして、昼間の7時から夜の7時まで表示が出るものでございます。

リアルタイム線量測定システムと可搬型ポストの違いなんですけれども、リアルタイム線量測定システムは、やはり放射性物質が地上のほうに沈着をしているわけ、特に放射性セシウムなんですけれども、それが沈着をしている状態を把握するというので、セシウムを基準に放射線量というのを測定するのに適したものになっていて、というものでございます。

それから、可搬型モニタリングポストの場合は、こちらは指示誤差というのも示されているとおおり、特に低いレベルのところは高い精度で測っているわけなんですけれども、こちらはいろんなセシウムだけじゃなくて、いろんな放射性物質に対応して、それをきちんとエネルギーに応じて測定をすることができるということで、非常に高い性能を持っているものでございます。

こちらの可搬型モニタリングポストは、先ほど御紹介ちょっとしました監視ポストですね。原発の周辺、30km周辺ですね。原発で何かあったときに速やかに対応するように置いているもの、それと同じぐらいの仕様になっているものでございます。

それから、次のページでございましてけれども、福島市内には水準ポストが3台ありまして、こちらは先ほど言った全国の都道府県のレベルを比較するために置いているものでございまして、こちらは低線量のところを範囲としておりまして、ここに書いてある $10\mu\text{Gy/h}$ ということで、そこの低レベルのものを正確に測るというものでございます。こういったものが市内にはあるということでございます。

7ページをお開きいただければと思います。

放射線量の状況ということでございます。こちらはリアルタイム線量測定システムですね。先ほど学校などについている、先ほど御紹介したときには366だと申し上げましたけれども、372台ということで、当初そのぐらいついていたものが、途中市のほうのご依頼とか、要は施設が統廃合してなくなってしまったとかというケースがあったりする場合には、一時的に撤去しております。それを今、撤去したものが環境創造センターという南相馬にある県の施設、こちらのほうの敷地に保管をしている状況ですけれども、それがございますので、若干台数が違いますけれども、当初からついている372台のほうですね。これを全て平均をしたものでございます。それがずっと毎月毎月の空間線量の推移を示しているものでございまして、青い帯ですね。この青い帯が、47都道府県に各1基ずつ設置された水準ポスト、これの事故以前の17年間の測定値の1日の平均値を表しております、事故以前と申しますと、これは1993年の4月～2010年の3月までですけれども、その17年間を示しているわけです。

この緑の点がだんだん青いところに入ってきているということが示されておるところでございます。

なお、この青い帯については、一番低いところで、青森県で0.01、それから、大きいところで山口県の0.115というレベルでございます。

それから、次のスライドです。棒グラフでございます。

これは、現在あります366台のリアルタイム線量測定システムですね。こちらは2017年の4月1日～2018年の3月までなんですけれども、その1年間の平均値がどの線量率の幅に入っているかということを表しているものでございまして、一番左側ですけれども、これが一番低いところで0.05～0.06の間にあるものが2台あって、あとは右側にいけばいくほど高いものになっていまして、0.18～0.19以上の間が2とかですね、0.20～0.21の間が2個、それから0.23～0.24の間が1個、それから0.25～0.26の間が1個というふうに、こんな形であるということで、山が高いほうがそういうところがいっぱいあるところございまして、このような分布になっているものでございます。

それから、9ページ目ですけれども、これは福島第一原発の現状ということで、これは現状といっても、いわゆる気体の放射性物質が結局遠くまで飛んでくるわけですけれども、そういうものがどの程度のものに今なっているのかということで、書いたものでございます。

一つは、今も原子炉建屋にガス状の放射性物質というのは出ているわけですけれども、

原発の敷地境界で、今のところ1年間で表しますと、1万分の5mSvというレベルに落ちついているという状況になっているところでございます。

それから、もう一つのほうのがれきの撤去ですね。あるいは、燃料の取り出し、これ、既に4号基とかは取り出しているわけですが、そういった作業が行われたときに、原発の敷地境界の大気中の放射性物質濃度、これが法令の基準以下になっていますということを確認している。

これは、我々のほうの規制庁じゃなくて、福島第一原子力発電所に規制事務所というのがありまして、規制事務所の職員が24時間365日必ずいて、監視をしておるんですけども、このようなことの取り組みをしているということになっています。

この濃度の基準なんですけれども、セシウム134で20Bq/m³ということという基準なんですけれども、これはいわゆる1年間ですね。24時間1年間そこにおいて、その分1mSvになるというレベルでございまして、そういうレベルというのも……こういうことでございます。

それから、10ページでございますけれども、除去土壌などの管理、安全管理ということで、福島市内で仮置場がまだ30カ所近くあると思っておりますけれども、大体除去されている土壌がまだ30万m³ぐらいあると聞いています。

また、仮置場以外ですね。一般の住宅など現場保管、こういった現場保管の数も6万箇所ぐらいですか、と思っておりますけれども、こちらの保管量が50万m³ぐらいということで、まだまだ土がある状態ということでございます。

仮置場については、これは敷地境界空間線量率というのを、先ほど御紹介したモニタリングポストではなくて、サーベイメーターというもので週1回測っている。それから、施設周辺の地下水を月1回測っているということでございます。これは福島市さんのほうで実施をいただいているところでございます。

それから、まだ保管状況はこういう状況なんですけれども、11ページですね、次のページですが、運搬になりますけれども、運搬はこれからまた福島市さんのほうでこれからまた行っていくわけですが、学校などの除染土壌ですね。これは平成31年度末までを目標に、まずは仮置場へ集約すると、こういう予定で聞いております。

学校以外のところですね。住宅、こういったものは、32年度末までを目標に、やはり仮置場にまた集約する。仮置場に集約した後に、中間貯蔵施設に持っていくと、こういうことになると聞いております。ちょっと中間貯蔵施設に持っていく時期はまだ未定だというふうに聞いておりますけれども、中間貯蔵施設に持っていく際には、これは環境省が輸送

車の輸送経路において、特に輸送車が集中するような箇所にモニタリングを行うという形でやっていく。ほかの市町村はそのような形になっていますけれども、同じような形で行うということになっております。

今のところはそういうふうなことで、これから安全な運搬というものをを行うと、こういう段階なんだというふうに聞いているところでございます。

それから、次のページでございませけれども、12ページということで、今までモニタリングポストの線量率がどのぐらいになっているかということとか、あるいは福島第一事故の、今の福島第一原発の現状ですね。それから、除去土壌というものです。その状況というものを勘案するわけですが、我々、一応将来的に、将来的にはリアルタイム線量測定システムというのを縮減をしていきたいと思っているところでございます。この可搬型モニタリングポスト、水準ポスト、監視ポストというもの、これは維持をして、リアルタイム線量測定システムについては、線量の度合いに応じて柔軟に対応していきたいというのが我々の考え方でございます。

これは、可搬型モニタリングポストとか水準ポスト、特に可搬型モニタリングポストに関しては、先ほども申し上げましたように、原発の周辺の監視というものと同じようなレベルのものでございまして、基本、もし何か原発で起きたときには、この可搬型モニタリングポストなどで数値を確認なり、または我々のほうでデータを確認して対応をするというふうな体制を整えたいと思っているところでございまして、リアルタイム線量測定システムについては、そういうものを使わなくても十分対応できるのではないかと、このような案を示しているところでございます。

それから、次のスライドですね。13ページでございませけれども、身近な放射線量を知るための方法ということで、モニタリングポストですね。これは特にその場所で固定されて設置されているものですので、その場所の近くのところの放射線量のレベルというのを把握することはできるわけですが、当然モニタリングポストがないところもございませ。そういうところについては、この絵にあるような、実物はこういう実物ですが、サーベイメーターですね。簡単に操作できるサーベイメーター、こういったものを使うと、その近くのもの、そこら辺の近辺のものを測る、その場所を測ることができるということでございまして、モニタリングポストだけではなくてこういうサーベイメーターもあわせて、放射線の量を知るためには有効だというふうに考えておりまして、今、福島市さんのほうには580台ぐらいですかね。現地に我々のほうで貸し出してございまして、そ

れを多分皆さん、住民さんの方々も、それをまたさらに借りて併用するという事も行われていたりするというふうに聞いております。このようなものも使っていただくとよろしいかなというふうに考えているところでございます。

それから、次のページ開いていただければと思います。

こちらは放射線に関する問い合わせ窓口ということで、今日は御説明させていただいて、これから御意見をいろいろいただくわけです。御意見をいただくわけですがけれども、帰って、帰った後に、こういうことも言いたかったなとか、あるいはこういうところを聞きそびれたとかいろいろあると思いますので、そういうものについては、このようにフリーダイヤルを設けておりますので、こちらのほうにお問い合わせしていただければ、お答えをすることができるというふうになっておりますので、御活用いただければと思います。

私からは以上でございます。

○南山総括調整官 それでは、皆様から御質問、御意見をいただきたいと思っております。

恐縮でございますが、最初にお手を挙げていただいて、私のほうで指名させていただく順番でマイクをお渡しいたしますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、御質問、御意見がある方は、お手を挙げていただけますか。

どうぞ、真ん中の。

○参加者 内容に入る前にお聞きしたいんですけども、規制庁として見直しをするための説明会を、福島市では2カ所でやるのね。しかも30万人もの人口の中でね。ちなみに、この意見を聞くためには、不十分じゃないかと思うんですよね。

除染のときに説明会とかね、福島の各学区ごとにやったほうがいいですね。しかも、夜ね。そうすれば、一般の勤め人も含めて、大変多くの方が心配して参加されたわけですがけれども、やはり市内で2カ所だけでは、本当に市民の方々の意見を十分に反映するような説明会になるのかというのは、私はならないと思うんですよね。

規制庁としては、今回みたいなやつでやると、……やると判断する……なるのかね。要望があれば、もっともっと細かく増やしたり、福島の学区単位ぐらいでやるのが一番いいなと思うんですけれども、そういうふうな要望があればやるという気があるのかどうかね、お聞きしたいなというふうに思いました。それが一つね。

もう一つは、前回も今回も40名なんですよね。これは、例えばね、1,000人幾らから40人だけに絞り込んで入っていただくようにしたのかね、40人しか申し込む人がいないから40人ずつぐらいになったのかね。そこら辺の事情もお聞きしたい。

以上です。

○南山総括調整官 ありがとうございます。

まず、市で2回というのは不十分であって、今後、例えば学区単位で行うとか、そういったことも考えられるのかということだと思います。

○武山監視情報課長 答えいたします。

まず、福島市で2回というのは、我々のほうでも実は福島市さんと御相談をして、住民説明会の希望はということで、一応希望をお聞きして、平日の夜と日曜日、休みですね。このときにまずやってくださいということで、来たわけですけども。

学区ごとにできるかという、実は現実問題としてなかなか我々のほうでもマンパワーの問題もあるので、そこまでできるかどうかはちょっと。ただ、我々としては、できるだけ皆さんの御希望に沿ってこの説明会をしたいと思っていまして、そういう意味で市町村の方にいろいろ御相談をしながら、どういう形でやったらいいかなということで、実は今回させていただいたという経緯がございます。

それから、40人なんですけど、これも一応私ども、市の広報誌とか、全戸配布されると聞いていましたので、そういうものを通じてまずお知らせするというのをまずしなきゃいけないということで、これも、だから市町村と相談をさせていただいて、そういう広報誌に載らせてくださいということで、全戸配布させていただいた、多分しているはずなんです。全戸配布、新聞折り込みか何か、とにかくそういうところにもちゃんと行き渡るようにしてくださいねということを書いて、それでもって今回募ったわけですけども、結果としてそのぐらいの人数だったということで、特に我々のほうで絞っているわけではないということだけ御理解いただければと思います。

○南山総括調整官 よろしいですか。

じゃあ、後の方。

○参加者 加戸と申します。

今の質問者の方と同じような部分もあるんですけども、多分、皆さん何を質問しているかわからないんじゃないかなという気が私はするんですよね。ぱっと説明を受けてね。

要は、ポイントをやっぱりきちんと絞っていただいて、それごとに皆さんに意見をいただかなくては、住民説明会をやりましたよという形式的なものだけに私はなってしまうと思うんですよ。

私、後から問題点はどんどん述べますけども、まず今、最初の質問の方がおっしゃった

ように、住民説明会を2回終えてしまうと。かつ、人数がやっぱり結果的に少ないしね。これ、結構ハードルが高かったと思いますよ。事前申し込みとかね、メールで事前に入れてくださいというのは。皆さん、フリーでいつでも来られるようにしてもらわないと、やっぱりなかなかみんな面倒だから、「いいや」ってなっちゃう場合が多いと思うんですよ。そういうことも踏まえて、やっぱりきちんと情報を出すということの姿勢に私は欠けているのではないかなというふうな気がいたします。

だから、規制庁さんね、前身の保安院時代から、原子炉の管理をやってこられていると思うんですけども、その辺が住民に本当に知らせる気があるのか。一応住民説明会をやっているという、その実績だけが欲しいのか。私はそこを実は疑っているんですけどね。だから、そこはやっぱりきちんともう少し開かれた行政ということで、市も含め、県も含め、もう少し積極的に前にいかないと、いろんな意見が挙がってこないんじゃないかなと思います。

今日、市の方、県の方来ているかどうか私はわかりませんが、やっぱりもう少し市も県も、積極的に前面に私は出てほしいと思っておりますので、そこは本題とはずれませんが、そこも含めて、まず一発目ということで、質問させていただきます。

○南山総括調整官 すみません。今の御質問ということになりますと、もう一度御質問。

○参加者 回答がいただけないならいいです。これしかやらないというのは困りますけどね。

ただ、要はやり方として、この説明だけ聞いて、「皆さん方、意見ください」と言われても、どういうふうなところから意見が欲しいというふうに出してもらわないと意見が言いつらいじゃないですかということです。

要は、いつ減らすの、まずね。いつ減らすの。

おっしゃいましたよね。まずは線量が低いところから順次減らして。そういう部分を、ポイントを絞って、「この部分で意見ありますか」「質問ありますか」というふうにいかないと、「全体として質問してください」と言われても、多分なかなか意見出ないんじゃないかというのが私の意見です。

○南山総括調整官 御意見、なかなかポイントを絞ってという御意見だったと思います。

それから、この場だけで終わってしまうのかという、これについては質問ということでもよろしいですか。

○参加者 はい。

○武山監視情報課長 我々、福島市さんだけではなく、いろいろ市町村を回るわけですが、どうしてもやはり制約、時間というか我々も人数の制約もございますので、まずは今回、まず30日と、それから今日やらせていただきましたので、まず、この2回をまずきちんとやるということを考えています。それ以外にじゃあやるのかということについては、今、我々のほうではまだ予定はしておりません。

我々、実は住民説明会を開くに当たって、やはり住民の方々にこういうものがあるんだということを知らせなきゃ、ちゃんと周知しなきゃいけないということだと考えていますので、市町村の、先ほど申しましたように広報誌ですね、こういったもので全戸配布されるもの、こういったものにまずは我々のほうのこういう説明会があるんだということをお知らせしなきゃいけないということで、そこら辺等のスケジュールの調整とかもして、今回やらせていただいたということで、我々としては、このお知らせ、周知については精一杯やったつもりでございます。

なかなか難しいんですけども、我々としてはこれでもって最大限というか、精一杯やったというふうに理解をしております、そういうふうにはいろんな御意見があるということは承っておきたいと思っております。

それから、あとは。

○南山総括調整官 例えば、いつ減らすのかとか……。

○武山監視情報課長 これは、我々としては平成33年の3月末ですね、これまでの間に減らせればいかなというふうに思っているところでございます。

これは、いわゆる我々のほうも実は予算上の関係もございまして、いわゆる福島、このモニタリングポストですね。このモニタリングポストは、実は福島の復興の予算でもって賄っているものでございます。今の法律上、この復興の予算というのが、今言った平成33年の3月末でもってなくなってしまうという一応法律がある。これは、今後、多分恐らくいろいろなところで報道されていますけれども、これをどうしたらいいか。モニタリングポストだけじゃなくて、いろんなものに復興予算が使われていますので、そういう意味では今後どうすべきかということについても、検討を全体的にしているところでございますけれども、とりあえず今、そういうふうな法律になっているものですから、であれば、我々として、このモニタリングポストについて、今後もこのままでいくのかどうか、こういうことについて考えざるを得ないということになります。

そういう意味で、今回、皆さん、我々のほうで一つの案を示して、こういう形で、今言

ったようなところまで減らせられるかどうかということについて、皆さんはどうお考えなのでしょうか、どういうふうにモニタリングポストを、今まで皆さんのほうでもモニタリングポストについて、いろいろな御意見、お考えがある若しくは実際に見ていて、こういうふうに感じているということがあるのではないかとこう思っていますので、そういったことについて率直にお話をいただければということで、この会を開いたということでございます。

○南山総括調整官 今の中で言うと、今後全くやらないということではないということですね。

○武山監視情報課長 説明会ですか。

○南山総括調整官 はい。

○武山監視情報課長 場合によっては、そういうことも考えなきゃいけないと思っているんですけど。

○南山総括調整官 すみません。じゃあ、こちらの。

○参加者 先ほど二人の方、私、仆と申します。

武山課長がいろいろおっしゃいましたけど、全く行政マン、役人としても、こんなに一般的な、通常のことなのに一步も進んでいない。この資料もなんですか、これ。我々、ど素人が3回読んでも4回でも、幼稚ですよ、本当。専門家的な資料をやって、つくって持ってきてやってくださいよ、この次までに。

この資料なんて、こんな幼稚なあれで福島市が被害を被っている実情をわかっていない。私は二つだけ言ってやめます。これからもどんどんやっていただきたいと思えますけどね。

いいですか。私、今日、この会議に飛んできたのは、一般的に地域住民の方は、モニタリングポストを撤去する、廃止するという噂が広まったので、とんでもない。今の現状を把握しているのかどうか。市政等は、「私のほうの管轄外だから」って。これから質問すること、ポイントを二つだけ言いますけどね。そんなことでなくて、福島のあれは平成23年3月11日2時46分、あれから7年6カ月22時、今日9月2日ですから、経過して、何も進んでいないんです。その一つは、武山課長、いいですか。これは聞き流すんじゃなくてちゃんとメモして、上の局長でも、大臣でも言ってくださいよ。

福島市の住民は、やったところも、ここにいる方がやったところもあるかもしれないけども、私、今、この会議に出る前にちゃんと昼も昼食もとらないで、モニタリングポスト、

リアルタイム測定で富士電機の366台のところ2カ所見てきました。ちゃんと数字もメモしてきました。幾らあったかという、私は0.08でも9でもあったら我慢しますけれども、0.124、片方0.126、そういうことね。濃いんです。そして、やってきまして、それでも言いたいことは、まず第1点。福島によって、中心部だ、南だ、北だ、西だ、東だあるでしょうけど、私のほうは中心部の西なんですけどね、ここから500もないかな。ですけども、自分の家から前の家、後の家、西、北、右も左も、全部グリーンシートをかぶせて、除染の土がそのまま7年6カ月22時前にやった除染のあれのままになっているんです。そういう現状を案内しますから、今日帰らないで、ホテル代ぐらい払ってやるから泊まって見ていってください。全部案内するから。どこに行ったってこのグリーンのものがある。

年をとっている人が何て言うかわかりますか。我々、こうやって頑張ってきたけど、この安住の地からなくなっちゃう。そんな30年に予算がなくなる。30年をタイムリミットだ。そんな役所の人、霞が関で考えていることと現地では大きな乖離があるんですよ。そこをわかってください。

私のところだって、グリーンあれ……思ったけど、除染に来た連中がみんな噂していて、ちょっと上の人とかを全部メモしてありますけど、ノートにね。これは二、三年経ったら、全部土地に埋めたんですよ。埋めたほうがいいという、もちろん先生たちがね。そしたら、それから7年、全然どこに聞いてもだめです。市役所のところに聞いたって「いや、中間貯蔵施設を探しているんですけど、ないんです」と言うだけ。そんな頼りのないことでなくて、本気になって環境省も規制庁もやってくださいよ。

そうでないとね、そこにうちを建てる計画を……、このために、そんな除染の、放射能の埋まっているところの土地にうちは建てられない。そして、今度、売ろうと思ったら、幾らでも高く買いますよという不動産業者だって、不動産鑑定士に随分やってもらったけど、除染したその土が埋まっているところはもう価値がゼロと同じだって。貸すといったって、ここはいつでも……除染を……ないとだめだと。

だから、あなたたち、ここにいる人たちにも言うけど、あの霞が関、自分の家のことを考えてくださいよ。自分のマンションにいるのか、公務員住宅にいるのか、戸建てにいるのかかわからないけど、自分のうちの周りにグリーン放射能をみんな持っていってください。運ぶから。

だから、そういうようなことを、逆の立場を考えてください。今は役所にいて、一般的な……答弁しかできないかもしれないけども、上から言われた……そんなわけないんです

よ。住民はものすごく苦しんでいるんですよ。ましてや、よその県に行っている人なんかも大変なんです。そういう困っていることだから、早く行政、環境省なり規制庁は権限を持っているわけだから、福島市からこういうふう申請が来ないから何もできない、やらないじゃなくて、今、住民のほうでは非常に困っているんだと。だから、そういう現状を踏まえて、知ろうとして、……して、それは早く中間貯蔵地を見つけて、どこか1カ所にまとめるとか、何とかするように進めてくれないかと。

平成30年って、ここにいる人だって半分ぐらい死んじゃうよ、はっきり言うと。のんきなことを言っていないで、そんなの言わないでくださいよ。……俺には今関係ないなんて逃げ腰になったから。

あと一つ、もう一つ。先般、7月の末ですけども、埼玉県の川越の先の大きな都市の大手スーパーの店長と社員の方と食事して会話したんですけど、福島の、ちょっとそのときモマの中心のあかつきという桃と、あと野菜……、キュウリなんかもおいしいでしょうと、私は福島の自慢……言ったんだよ。いや、埼玉県のベッドタウンとして、大きな団地です。恐らく何千世帯と入っている団地ですけど、私のところは福島産の桃であろうと、果物であろうと、野菜であろうと、幾ら安く仕入れても全く売れません。福島というだけで放射能、イコール放射能、全く売れないから仕入れはしませんし、あつて価格は1割2割で売ろうとしても売れません。消費者は放射能嫌いでアレルギーが出るんだよと。そういうことも原子力規制庁なり、環境省なり、よく見てくださいよ。我々は朝から夕方の時間、買い物時間だけ仕事やっていればいいんだから。現地は土曜も日曜もなく、現場の声を聞いて、見て、そして仕事をしてくださいよ。

以上です。

○南山総括調整官 ありがとうございます。

2点ほどあったかと思えます。

まず、福島の現状をよく知ってほしいということ。

それから、風評の問題ですね。そういったものがやはり現実のものとしてあるんだということも、よく現状をまず知ってという御意見だと思います。

それから、すみません。回しますけれども、先ほども申し上げましたけど、説明会の模様はしっかり記録させていただきまして、これは誰でも見ていただけるようになりますし、庁内の者、それから委員会にも当然見てもらいますので。その点は申し上げます。

それでは、武山課長。特に何かございます。

○武山監視情報課長 御意見はちゃんと伝えますし、今、おっしゃったのは、まだ除染土壌が近くにあるということ、まだその排出の目処が立っていないということ、ごさいますよね。それは我々のほうでも十分認識をしておるところでございまして、一刻も早く出せるように努力はしたいと思ひます。

それから、食品の関係ですね。こちらは一応その基準があつて、それ以下であれば大丈夫だというふうには我々のほうとしては言つていたわけですね。その基準は、世界的に見ても厳しい基準なんですけれども、そうは言つてもなかなか風評といひますかね、こういったものはなかなか難しいといふことで、我々も含めて政府として、風評のその対策ですね。こういったものについても改めてアクションプランみたいなものを今つくつてやつてるところですので、そういうもので一生懸命努力をして、そういうことがなくなるようにしたい、こう思つておひます。

○南山総括調整官 じゃあ、そちらの女性の方。

○参加者 ヒライと申します。

私もこの会があるのを知りませんで、1時10分ごろにお友達から、「これからちょっと説明会に行つてくる」といふのを聞いて、慌てて「ああ、そういうことをやるんだ。知らなかつたな」と思つて急いで駆けつけました。

リアルタイムの線量測定システムの配置見直しといふことなので、きっとモニタリングポストを撤去するための一つのプロセスの会なんだと思つて参加しておひます。

それで、私はモニタリングポストを撤去するといふことに対しては反対なんです。なぜなら、私、孫が二人おひまして、それで公園とかに、今は除染も終わったので、終わつてからは外で遊ばせてもいいかなと思つて、外遊びをさせるようになりまして。それまでは、本当に福島に住民は、小さな子どもを外に出さなかつたんです、出せなかつたんです。なぜならば、子どもつて、やっぱりちょっと興味深い土をいじつたり、石ころがあると、とても想像力豊かに何か石ころで遊んだりするので、やっぱりちょっと放射能が少しでもつていたら、子どもたちはとても遊ばせられませんでした。

それで、孫が遊んでいる公園に、最近では散歩したりはしておひますね。そうすると、渡利地区の方とか、岡部、山口の方が、わざわざ何キロかかけて、その公園に遊びにいらつしやるんですね。私、「どちらからいらつしやつたんですか」と聞くと、「渡利から。渡利は線量が高いのでね」と言つてね、土日に御両親が車で連れて遊びに来るといふ状況なんですね。

その公園にはモニタリングポストが置いてありまして、私も頻繁にそれを見ております。

現在は0.15なんですね。それが……山の麓も0.15、じゃあその0.15は低いから、子どもたちに影響はないよということなんでしょう、原子力規制庁は。私はそういうふうには考えられないんですよ。

だから、もしそのモニタリングポストがなくなったらば、0.15なんだか、0.10なんだかわからない。安心して遊ぶようなことにならないと思うんですね。でも、事故前で0.04ですか。放射線量は0.04で、私たち、いろんな方法から知っているわけなんですけど、その値に限りなく近づかない限り、私はモニタリングポストを撤去されることに対しては反対です。

それは、やっぱり原子力のことを安全だと思っている方たち、早くそれを撤去したほうが復興のためにいいんじゃないのみたいな感じで考えるかもしれませんが、命を抱える女性はそういうふうには考えられないんですよ。

そして、こういうこともあったんですよ。私、市役所に出入りするんですけども、市役所にある地区、信夫山の……地区だったんですけども、その市役所にあるとき行ったときに、職員の人たちが全員マスクをしていたんですよ。ええ、この前はそんなことなかったのにどうしたんだろうと私、思ったんですね、瞬間的に。すごく嫌な光景。それで、私、ひそかに、「もしかして今日は放射能高いんですか」と聞いたら、「いやあ、もうこの辺はブドウ畑が多いからね、もともと高いんですよ」と言うだけなんですよ。高いとか低いとも言わないで、もともと高いからみたいな。私はそのときに、もしかすると行政は、何ら数値を知っていて、今日はこのぐらい、今日はこのぐらい、今日は原発のところで何か撤去のために何かやっているから、わっと放射能が飛んでくるとかわかっているのかなって私はすごく不信感を覚えましたね。そのときに、もしモニタリングポストがなければ、そのこともわからないで、だって今現在、福島原発が収束はしていないでいて、それで水を海に流そうとか何とかという、毎日毎日騒いでいるわけですよ。それで、その撤去するときだって、燃料も1本動かすのに1,000万円かかるんだとかという感じで、それが何万本あるのかなとかってこっちは思っちゃうし、地震があるたびに、原子力発電所は大丈夫かな、放射能は飛んでこないのかな、そんな生活をしているわけですよ。

そのときに、もうこのためにモニタリングポストを撤去しましょうというのは、すごく人命を軽視した考えだと私は思って、私たち、どっちみちずっと被害者なんですよ、一生……。そりゃ30年後でないとわからないですよ、どんなことが起こるかというのは。

だから、30年間つけておいてくださいよ、モニタリングポスト。それをお願いします。

お金が幾らかかるかわかりませんが、そのお金のことも言ってください。

○南山総括調整官 すみません。御意見として承ってもよろしいですか。

ただ、今、お話の中に、低いから問題ないと言っているのかということ、ちょっと事実関係をもう一度御説明できますか。

○武山監視情報課長 我々、今、よくある0.23という除染基準がございますけれども、我々はそのレベルであれば問題はないというふうに考えているわけですが、あと、先ほど御紹介しましたように、全国平均も、こちらは確かに事故前ですけど、0.04というレベルだったと思います。

ただ、日本全国見ていくと、実は、先ほど山口県の例を申し上げましたけど、0.1を超えるところもあつたりするわけで、必ずしも事故前のレベルじゃないと安心じゃないのかということ、そうじゃないというふうに我々は考えているところです。

○南山総括調整官 すみません。まだほかの方が。

すみません。たくさん手が挙がりましてので、一番前の方からすみません。今、マイクをお持ちします。

○参加者 私、今日二、三点お聞きしたいと思ってきたんですけども、先ほどおっしゃったように、このPRね。これは市も悪いと思うんですよ。市政だよりも来なくて、私はこの前のやつをテレビか何かで見て、「2回目やります」ということで、市役所に電話したんですよ。そして初めて聞いたんですよ。だから、やっぱりそういうやるときは、先ほどおっしゃったようにね、やはりもう少し市民の方に広報して、市政だよりもやっているわけですから、やはりそういうのを利用してやっぱりやるべきだったんじゃないかというふうに思います。

それからね、私のところは、いろんな市内があるんでしょうけども、私はちょっと……が野球場の近くにおるんですけども、低い、今現在は、私、毎日ポストを見ているんですが、0.13ぐらいなんですね。それで、やはり結論から言いますと、やはり必要ないようなところは取って必要なところに移すというのは、やはりあり余る予算でもないですからね、合理的にやってもいいと思うんですよ。

ただ、そのときにね、0.23で私なんか我慢するほうですけども、それは場所によっていろいろなわけですね。だから、そういうことで心配される方が多いわけですから、私、そういうことで一つPR問題でね、やっぱり少しやるべきだったんじゃないかということ。

それから、私は孫を1年ぐらい保育所に毎日送り迎えして、保育所のところも毎日チェックしているんですけども、大体0.15、あるいは0.13なんですね。そして、これはその場所はなくてもいいんでないかなというふうに思ったこともあります、実際。2カ所を私、1日測っているんですけども、一番近くのところは今日も0.13ぐらいでした。

それでね、爆発したときにね、私は放射能計を買って測ったんです、うちの周りを全部。これ、1年ぐらいやったんですけども、最初はやっぱりあの辺とかは0.35とかあったんですけども、そのほか、ほとんど0.2とかね、8カ所をずっと1年ぐらい測ったんですけども、だんだん少なくなってきましたね、市内全部除染するというような話になったとき、私はお断りしたんですよ。もう測って大丈夫だから、そういうのに金をかけないでくれということね、私はやっていません、一切。だから、物すごく被害に遭ったところにやってくださいということでお断りをしたことがあります。

そういうことで、やはりポストも何ていうか、実際問題必要ないようなところは若干あるんじゃないかと思うんですよ。もう0.04とか0.05とかのところには戻れないわけでしょう、実際は。だから、そういうので、私はある程度そういう科学的な根拠があれば多少やって、そして高いほうに移すとか、そういうことをやってもらいたいというふうに思っています。ひとつよろしく願いいたします。

それから、二、三希望なんです、これは直接武山課長は関係ないかもしれませんが、原子力委員会にお願いしたいのは、水を流すというような問題がありますね。あれはね、やっぱり私はね、福島県でなくて、流すのであれば東京でも全部流すべきだと思うんですよ。福島県にだけ何でもないから流すということじゃなくて、何でもないから東京の場でも流すということをお願いしたいということをお願いします。

何でも福島県だけね、一番簡単であれなのは、それこそ福島県は放射能の土から何からばらして、今やっているわけでしょう。だから、その辺を考えれば、そんなに問題ないんであれば、東京まででも何でも全国で流して、やっぱりやってもらいたい。それは土の問題がありますけども、土も何でもないから……1回テストをするようなことをやりましたよね。だから、本当に土がそういう浄化して何でもないんであれば、やはりオリンピックでも何でもあるわけですから、ああいう工事で使えると思うんですよ、私。そうでしょう。もったいない、土なんです。そういうこともやはりやるべきだと思うんですよ、本当にそれが間違いないんであれば。そういうことを、やはり原子力委員会がそういうことをやっぱりやっていただきたいと切に思っております。

今後ともそういうことをよろしくお願ひしたいと思ひます。お願ひします。

○南山総括調整官 ありがとうございます。

今のお話の中で、原子力委員会というのは原子力規制委員会ということですね。

○参加者 そうです。

○南山総括調整官 ありがとうございます。

その中で、必要などころに必要なポストをつけて、移設。必要のないところから持ってきて移設というお話もあったかと思ひます。

そこら辺のところは、何かコメントございますか。

○武山監視情報課長 確かに低いところから高いところに持って行ってという、そういうことも一つ今回は活用策として考えていきたいというふうに思っているところでございます。

あと、例の処理済み水の話とか、ちょっとこれは規制委員会が東京に流せというのはなかなか難しいんですけど、これは一つの御意見として、こういうこともあったということについては記録をさせていただいて、伝えておきたいと思ひます。

○南山総括調整官 ありがとうございます。

すみません。前のほうから聞きますので、2番目の方、女性の方。

○参加者 私はリアルタイム線量測定システムの継続配置を求める市民の会、福島を代表としております、カラムキと申します。

今回のこの住民説明会についてなんですけれども、先ほどから御意見出ていますように、やはり子育て世代のお母さんたちがこの会に参加することに対して、ちょっと敷居が高いように感じるんですね。事前に申し込みが必要だったり、あとは学校行事などが多い日曜のお昼間とか、あとは平日はなかなか子育て世代のお母さんたち、夕方、夜は家をあけにくいという方が多いので、そういった方たちのためにも、もう少し学校などを通してこの会をわかりやすく伝えて、そして、誰でもオープンに入れる。申し込みも必要だということで、そこに敷居の高さを感じてしまっている方が多いので、オープンな形であってほしいと思ひています。

そして、基本といたしましては、リアルタイム線量測定システムを継続配置を求める市民の会としてもたくさん署名活動をしておりまして、署名がたくさん集まっていると思うんですけれども、その件に関しましてはどれぐらい把握していらっしゃるのでしょうかというところをお聞きしたいです。

意見として、その会とは別に、私はNPOとして住人からの依頼に応じて、ホットスポットファインダーという機械で市内を測定して回っているんですけども、その中で、子どもたちが学校に通学する中で歩く、本当に通学路から二、三步離れたところに1mSvというところもありました。そして、県庁のすぐ裏の土手のところには、3 μ を超える箇所もありました。その横では普通に高校生たちが部活で走ったりもしています。

そういったことを市内に住んでいるお母さんたち、かなり危険だと感じていて、こういった場にはなかなか敷居が高くて来にくいお母さんたちも、署名運動や何かでは意思表示をしているので、それをどれぐらい把握して、検討していただいているのかというところをお聞きしたいです。

○南山総括調整官 ありがとうございます。

署名活動について、どの程度規制庁として把握しているのかということ。

それから、線量の話については、多分このフリーダイヤルもそうですけども、こういった数字があるとか、そういったことの情報をお寄せいただければ、具体的に動けるところがあると思います。

○参加者 市内の除染課などには何度かお声がけしたんですけども、今の時点で再除染というのは検討していないというお答えだったんですけども、原子力規制委員会のほうに直接御連絡したら、そういったことも対応していただけるのでしょうか。

○南山総括調整官 そこら辺のことも答えられると思いますけれども、基本的には情報をいただきまして、我々のモニタリングの専門家もいますので、どこでどういうふうに……になっているのかということが把握できるかと思います。

まず、活動、署名の状況、これはどんな把握なんですか。

○武山監視情報課長 署名は、実は具体的に我々もらってはいないんですけども、以前にそちらの市民の会ですか、市民の会の方が3名ぐらい我々のところに来たときに、そのときには1万筆ぐらい集まっていますということの口頭での御報告がございました。一応それだけは聞いております。

あと、ホットスポットですか。ホットスポットは、これは難しいんですけども、測ったものがどの程度のものか、測ったものがどういうものかによると思うんです。

なぜかという、むしろこういう機械とかはやっぱ精度があるので、結構幅があるんですよね、値としては。だから、幾つかの値、多分幅があるところもあると思いますので、またどういう形で測ったということにもよって数字も変わってしまうので、一概には言え

ないのかもしれませんが、ただ、福島市内ですね。たしか500mメッシュとか1kmメッシュぐらいで、市のほうでサーベイメーターでもって毎年測っていて、マップができていると思うんですけども、そこである程度高いところというのは示されています。それは、3 μ までいっているかどうかはわかりませんが、先ほど言った除染の基準の0.23というところ、それを上回っているというところもあると思っていますけれども、一応そういうことで、どういうところが高いかということをもとに知ることが大事だと思っています、そういうところがあるんだということを、やっぱりちゃんと周りの皆さんで認識して周知をしておくということが、まずは大事かなと思います。

なかなか除染を、結局除染というのも、結局は汚染物質を移動させるということにすぎないのもあるので、なかなか難しいんですけどね。まずは、そういう、どういうところがそういうものかということ、先ほど言った市の、市もそういう表をつくってこういうところが高いよというのを示したりしているので、適時そういったことで情報を共有して、用心していただくということが大事かなというふうに思いました。

○南山総括調整官 ありがとうございます。

ごめんなさい、こちらの3番目の方。前のほうから参りますので、恐縮でございます。

○参加者 福島市の4がみといいます。今日はありがとうございます。

三春の説明会があった後に、新聞報道で来年度の予算は計上されるということが書かれていたんですが、ということは、来年度はどこも動かさずに維持されるということなのかをお聞きしたいのと、あとは維持されるというのが決まったというのは、この説明会が始まって意見が出されて、そうなったのかどうか、ちょっと聞きたいと思いました。

あと、復興予算が33年の3月で終わりなのだというお話もされたんですが、事故を起こしたのは東京電力なので、そのお金を東京電力に請求するということはできないのかなと思いました。

一応、質問は二つなんですが、あと、私の意見としては、私も事故当時小学校4年生だった子どもが、今、高校3年生になっているんですが、ずっと福島で暮らしてきて、福島の食べ物は、福島のもは測っているので大丈夫だって食べていますし、今は一定落ちついて生活しているんですが、それは全て測ってあるという安心感があるので、食べ物にしても、環境の線量にしても、あとは健康診断とか、甲状腺の検査とかいろいろやられてきて、判断して今いるんですけども。

モニタリングポストとリアルタイム線量計、モニタリングポストは残すとおっしゃって

いるんですが、私が知る限り、モニタリングポストって……公園ってあるんですけども、そこに1カ所あるのは何となくわかるんですが、そこってわざわざ見に行く場所ではなくて、リアルタイム線量計は数多くあるので、目にしたときに、今、この数値なんだって安心してできるためには、本当にまだまだ置いてほしいなと思うんですけども、今、西日本豪雨のような災害が起きたり、本当にそれがどこで起こるか分からない。地震もいろんところで起きたりということもあるので、本当にそういったときに、本当に身近にリアルタイム線量計で線量把握ができるということは安心につながるので、まだ撤去はしないでいただきたいなと思っているのと、やっぱり見て、この7年間線量とかいろんなもので判断して、私の中でリスクコミュニケーションになってきたので、そこはわかっていたいただきたいなと思います。

以上です。

○南山総括調整官 ありがとうございます。

今のお話の中で、予算の話、実際に来年度維持されるのか、いかがですか。

○武山監視情報課長 予算ですね。概算要求を31年度のを8月31日にまとめて示しているわけですけども、これはまず、今のモニタリングポストですね。リアルタイム線量測定システムが、そのままあるということの前提でもって維持管理費というのを今は計上しております。

これは、じゃあそれでもって、じゃあ、今年度、来年度の予算なので来年度、じゃあ1台たりとも撤去しないのかということなんですけど、これはそうではなくて、そうではなくてというのは、実は撤去費用というのはまた別に要求しなきゃいけないんですね。これは、例えば今までもそうなんですけれども、先ほどもちょっとちらっと紹介しましたが、例えば学校がなくなってしまうとか、幼稚園がなくなってしまうとかというケースがあったりすると、そこからは外さざるを得ないんですね、もう。そういったことがあったりすると、そういうための費用とかもかかりますので、我々としてはそういうものも合わせて、今もあるんですけど、1億円ぐらいを積んでいるんですけども、それがまた継続してあります。

もし、本格的にいっぱい撤去しようとするすると撤去費用がかさむことになるので、またそれを後でもしなきゃいけないんですけども、我々としては、まずはまだ住民説明会をやっている最中ですし、ある意味きちんと撤去をいついつからするんだということを決めているわけではないので、まずは今のやつの維持というものは、これは残しておかなきゃいけ

ないというふうに思って、こういうことでございまして、そういうことでございます。

それから、もう一つが復興予算の関係ですね。これはあれですね。復興予算がなくなっちゃうんで、東京電力にその分肩がわりしてもらったらどうかと、こういうことだと思うんですけども、違ったんですか。

○参加者 そもそも私たちの税金から払っているのはおかしい。

○武山監視情報課長 そういうことですか。

これは、ちょっと難しいんですけども、今、例えば除染とかをやっているのも、復興予算でやっているんですけども、例えば除染の費用とか中間貯蔵の費用は、東京電力に後で求償されるということになっています。これは法律でそういう記載があるんですね。ただ、モニタリングポストは、実際に法律でそういう記載がないんですよ。

一つは、だから、もしそういうことをやるとすると、法律的な手続が、法的なものとことなんで、これはちょっと国会とかで決めてもらわないといけないところがあって、場合によってはそういうこともあるのかもしれませんが、今はそういうふうにはなっていないということでございます。

我々、先ほど言った残すポストがございまして、可搬型ポストは残したりするわけですね。リアルタイム線量測定システムも、今後残すかもしれないとなると、いずれにしても残すものは必ずあるんですね。そのための費用というのは、今までも復興予算で賄っているものもあるから、何らかの形でやっぱり残すんだったら予算がいることになるわけですね。そこは、我々としても全力で残すようにしなきゃいけないと思っているところでございます。

だから、全く全部使えるだろうというわけじゃなくて、きちんと残すものはちゃんと残すような手当をしようというふうに考えているところでございます。

○南山総括調整官 じゃあ、隣の。

○参加者 続けて質問と意見を述べさせていただきます。

私は渡利のほうから来ました。今日の説明会があるという市政だよりとかいろんところで報道があったときに、渡利の人たちも行きたい人が何人かいたみたいなんですけど、ちょっと木曜日の夜は厳しいし、土日のどっちかに行きたいということだったんですが、渡利地域は今日地域の運動会というのをやっていて、やっぱり自治会関係の方たちは運動会に集中ということで、何か来られない人がいっぱいいたので、そういう地域も多分この時期ってあると思うので、時期的な設定の時期をもうちょっと考慮していただければよか

ったなと思ったを、ちょっと初めになんですけれども。

渡利で私も子育てをしていて、一番下が小学生なんですけれども、先ほども市の行っている500mメッシュの話が出ましたけれども、渡利地域はその500mメッシュが146区画あって、その146区画の平均が0.24というふうになっているんですけど、細かく見ていくと、146区画中52区画が0.23以上になっていて、今、リアルタイム線量計がたしか26台ぐらい渡利地域にあったかと思うんですが、今こういう状態になっているときに、可搬型モニタリングポストもあるということはわかっているんですけども、そのリアルタイム線量計が26台あるのが一気にゼロになってしまうというのは、やっぱりちょっと不安だなというふうに考えています。

それから、廃炉作業が続いていたり、あと、渡利地域内でも、今、除去した土壌の搬出作業が続いていて、近くのふれあいビル、子どもたちが遊ぶ公園みたいなところも、今、柵が閉じてあって、土壌搬出中作業というのが、ちょうど今されているところなんですけど、まだまだ小学校も土壌の掘り起こしが終わっていないですし、そういう状態にあって、せめて廃炉作業が終わるまで、せめて搬出作業が全て完了するまでというのは、やっぱりリアルタイム線量計が福島市内から全部なくなってしまう、モニタリングポストがあったとしても、すぐに見に行ける身近なものなくなってしまうというのは、やっぱり不安だなというふうに思っています。

やっぱり事故後に、自分のところはどうかというのがわからなかった状況が続いたというのがすごく不安で、地震とかいろんなものが、自然災害が本当に続いていますけれども、そのときに発表される公の機関からの数値というものを、本来本当に信用していいものかどうかというトラウマのようなものが今も残っていて、リアルタイム線量計が近くにある、毎日見ている機械ではないんですけども、何かあったときにちょっと見に行けるというところにあるというのが、安心につながるかなというふうに思っています。

そういう意味では、確かに渡利地域でもすごい狭い区画に子どもに関わる施設が隣接しているのがあって、そこに1個ずつ立っているという、もしかするとこれは一つとか、例えば三つあるうち二つとか、一つはなくなっても、ここがあればとりあえずこの地域の皆さんはここを見に来られるかなとか、そういう具体的なところを残す、残さないというのはあり得るかなとは思いますが、少なくとも避難所となり得るような小学校とか学習センターというのは、やっぱり地域の皆さんが何かあったらそこに行くものだし、そのリアルタイム線量計は撤去してはいけないんじゃないかなというふうに思っている

のが私の意見です。

その上で質問させていただきたいんですけども、先ほどの33年3月、2020年度末という日程は、規制委員会の3月20日の会議のときに方針として出されたわけですけども、これは決定、さっきから余地はあり得るということなんですけど、大きな決定枠としては、出さないというか、ここは動かせないものとしてゴールとしてあるのかどうかと、それから、その会議を開くに当たって、委員会のほうで福島県を初め、県内の市町村からのいろんな意見を聴取して、それもネットで見れるので、私も見させていただいたんですけど、やっぱり自治体で働く職員の皆さんが、「時期尚早だな」とか、「子どもを育てる皆さんからはやっぱり不安の声が大きく上がるのではないか」というような意見が出されていましたけれども、そういう声に対してどういう思いを持っていらっしゃるのかというのが二つ目の質問と、それから、質問がいっぱい申し訳ないんですけど、6月の議会で、県内のいろんな自治体からリアルタイム線量計の撤去の中止とか、そういうような意見書がいろんな自治体の議会から上がっているかと思うんですけども、それに対してはどのような対応というか、そういうことをどう考えていらっしゃるのか。

それから、最後なんですけど、結局はお金の問題というのが、このリアルタイム線量計の撤去の最大の理由になるのかどうか。結局、予算が2020年度末で復興予算というのが大きく減ってしまう、なくなってしまうということで、その維持管理費用の関係でリアルタイム線量計の撤去というのが出てきて、これが最大の理由なのかどうかというところをちょっと確認したいんですけども、よろしくお願いします。

○南山総括調整官 ありがとうございます。

すみません、御質問のほうから3月の委員会の決定というのは変わらないのか、今後変わらないのか。その際にも非常に自治体の不安の意見があったが、それをどう酌み取ったのか。今現在、各自治体から意見が出てきているけれども、その受け止め、どういう扱い、どうするのか。

それから、お金が最大の理由なのかという、何点かありますけども、それについてお願いいたします。

○武山監視情報課長 まず、3月20日、方針に33年3月、32年度末を目安にという方針を決めたわけですけども、我々、……あわせて住民とかむしろ各市町村の意見というものに対して「こうではないか」ということで、その意見に対して考え方も示させていただきました。

これはあくまでも、我々科学的に考えるともうそういうことになるのではないかということを決めたわけですが、やはりそこは、やはりそういうことではあるけれども、やはり住民の方々はまだ不安をお持ちなのではないかということで、今回、住民説明会を開いて、どういう不安があるのか、どういうところなのか、どの程度わかるのかということについて、まずは話を聞いた。その上で、この方針のですね。その上で、いただいた意見を吸い上げて、また委員会に報告するときに、その方針の見直しもあり得るというふうに考えているところでございます。

それから、今まで市町村、いろんな議会さんから、または市町村長からも反対の意見というのはいただいています。これは、先ほど言った皆さんの意見とともに委員会できちんと報告をして、委員会でも既にそういう意見は来ていますけれども、その意見を踏まえて今後どうするかということについて、決めていく一つの重要なものだというふうに考えているところでございます。

それから、これ、最終的にはお金の話なのかということなんですけれども、実は我々は、先ほど言ったように線量が低くなっているということでもって、今回こういう形にしてはどうかということを行っているわけで、お金はどっちにしても、維持するにしても、維持するところはまだ幾つか当然あるわけで、お金は当然かかるわけです。でも、我々としては、今のですけれども、予算、お金というのは、やはり合理的に使わなきゃいけないというのが原則なので、今回この状況変化というか、以前、事故の当時と比べて低くなっているという状況変化を考えたときに、やっぱりこのままでいいのかということは、どうしても常に予算というのは考えなきゃいけないところがあります。

毎年毎年基本的には予算というのは要求しなきゃいけなくて、要求するに当たって、1億円がかわってれば、こうじゃないのかというふうに財務当局のほうからも言われますので、そういう意味からすると、一つの一般的な見直しの一部なわけです、予算に関して言うと。だから、これが大きな、予算が大きな原因というわけじゃなくて、これは一般的に我々行政をする上では常につきまとう話であって、第一の理由、大きな理由、主な理由としては、線量が低くなっているということが理由として、見直しの理由としてなっているというふうに御理解いただければと思います。

○南山総括調整官 ありがとうございます。

ちょっと順番に回っていきますが、申し訳ございません。

○参加者 すみません。今日は福島のほうから来ましたわりといます。

私もお話を聞いていて、まず一つ疑問に思いましたのは、規制庁の方が0.23という数値に安全基準を置いて話をされていることに、一つまず疑問を持ちました。

これは多分、日本の環境放射能の数値と国際防護委員会が1mSvですか、までをいいというのを根拠に、年間の数字で割って0.23という数字を出しているんじゃないかなというふうに思うんですけども、この国際防護委員会が1mSvまでは年間受けてもいいと言っていることには、全く何ら根拠もないという学説もありますので、国際防護委員会が原子力を推進する立場で1mSvならいいだろうというふうな設置をしているというふうにも聞いておりますので、規制庁のほうで0.23という数値を安全の数値のように公に大びらかに言っていること自体が、やはり私たち福島県の被害を受けた人間にとっては疑問があります。

私たちはやっぱりその0.23にはこだわっていません。閾値というのは設けず、できるだけ低い数値で生活をしよう、子どもを守ろう、自分たちの命を守ろうということで、この事故を知り、放射能の怖さを知り、対策をとって今日まで来ています。

そして、いまだに除染など、線量が測られていない山とかに隣接するところでも生活していますけれども、それでも線量が十分に下がっていないということを認識しながら、これらの線量をどうやったら低くして安全に暮らせるかということ、福島で安全に暮らせるかということ、を求めて生活してきておりました。

ですので、規制庁が上から「0.23は安全ですから」と言われるのは、私たち福島県民からすると非常に違和感があるし、私はこの話を聞いたとき、すごい絶望感というか、そういうものに苛まれました。

そういうことですので、規制庁が数値をもって「だから大丈夫」ということではなくて、私たち福島県民は、できるだけ少ない線量の中で暮らしたいという要求を持って暮らしておりますので、そういうことを応援するという立場に立っていただきたいというふうに思います。

以上です。

○南山総括調整官 ありがとうございます。

○参加者 ちょっといいですか。30分しか時間がないです。だから、もう少し意見を出してもらわないと終わらないですよ。

○南山総括調整官 ありがとうございます。

ちょっとその辺のところは、何かコメントがなければどんどん意見をいただきたいと思っています。ありがとうございます。

じゃあ、3列目の真ん中の方。

○参加者 福島の……申します。

これ、見直しの関係で地図を見ますと、現段階と見直しについてということでのリアルタイムの数字を、赤い印を見ますと、福島はゼロになるということの決定でよろしいでしょうか。

今現在、何台福島にあって、それが何台になるのかって正確な台数を教えていただきたいと思います。

あと、前に線量の高いところに移動しますというお話がありましたよね。そこは数字から見ますと、2,400台減って、この2,400台はどこに行くのか。それが全然示されていないですよね、見直しについて。まるっきし2,400台減っていますので、この2,400台の行き先はどのように計画されているのか、まるっきり減らすのか。

そして、またちょっと騙されているような気がするんですね、2,400台減っていますから。その辺で今、正確な数字を教えていただきたいと思います。

○南山総括調整官 その辺の数字のお話です。

○武山監視情報課長 まず、何台撤去するかということについてはですけど、福島市内ですね。基本、今、0.23の話がありましたけど、0.23を目安に考えていまして、それを直近の1年間で平均が0.23ということで考えたいと思っていまして、したがって、実際に移動するとなったときに、そのポストについてはですね。その直近の1年間で0.23以上か、それとも未満かによって、ポストを移動するかどうかを決めるということなので、まだ、今現時点で何台かというのは、撤去する時期がいつかによって決まってくるので、台数についてはまだ特定されません。

ただ、先ほどのグラフですね。我々のほうで、例えば8ページにありました棒グラフがございましたけれども、これである程度捉えると、2018年の3月31日平均までを1年間の平均で、例えばこれを4月ぐらいに撤去しようということだとすると、そうすると、ここの0.23を超えているやつが、今、2台ありますので、この2台は例えば残りますとかね、こういう考え方をしたいということでございます。

それから、2,400台、先ほどの絵ですね。これは2,400台をもし全部なくしたらこうなりますよということで、その移設先はどうなるかということなんですけども、我々も丸ごと全部2,400台を移設できるかどうかというのは思っていなくて、2,400台のうち一つは設備の寿命とかもございまして、まだ寿命に至っていないで使えるもの、そういう機器

の状態を見て移設できるかどうかを決めるのが一つと、それからもう一個は受け入れ先です。12市町村のほうで例えば使うとなったときに、どのくらい手を挙げられるかによって移設する台数も決まってくると思います。

したがって、そういったことも含めて考えているところでございまして、今、具体的に何台が移設されるかということについては、決まっていないということでございます。

○南山総括調整官 では、ちょっと後ろのほう、4番目の列の先ほどの方、すみません。

○参加者 私は湯野に住んでいる者ですけど、4番目の発言された方の問題意識については共有できると思うんですよ。

その上で、それと前置きになりますけど、私、愛宕山公園というところに一つあるんですよ。そこの公園は私も住人、そして、ときにはスポーツ少年団の子どもたちも含めて、毎日1回、朝6時半から清掃をやっています。昨日は0.118ですから、0.13の話も出ましたが、そういう状況ですけれども。

朝ですね、6時半からやるんですけど、旅館に泊まったお客さんとか、あるいは合宿で来ている学生、そういう人たちが朝小屋に上るんですよ。もちろん地元の方々も散歩に来ます。そういうところで、我々は清掃活動をやっているんですが、ぜひ、問題意識を、つまり、私、住人と行政をつなぐ役をちょっとやっていたので、原発が爆発をしたときから今日まで、ついこの前、5月にやめたんですけど、今日まで利害関係者と行政の間で出てくる問題について、いろいろ対応してきました。

そういうことで、いわゆる数字の問題で議論していたら、これは果てしなくということだと思いませんか。

そこで、申し訳ないんですが、復興ということがよく言われますけれども、これは私はインフラの整備や、あるいは企業誘致だとか、あるいは周辺のまちづくりだとか、そういうことをもっていわゆる復興と言うのかどうか。私は、永久に原発がある限り、復興という課題は永久にとられる問題だというふうに思っています。

そういう意味で考えてまいりますと、一体、今をもって原発とその影響についての責任がはっきりしていないわけですよ。そういう状況の下で、数値だけの議論であれをこうする、ああするという話では、やっぱり問題を避けていくのではないかとこのように思います。

これから40年とか50年とかかかると言われておりますけど、我々は復興税、福島だけではありませんけれど、復興税を取られているわけですよ。だから、そういうことを考え

ると、今、国の政策として、30億かどうかわかりませんが、予算の関係でどう言われても、こうして復興税まで払っている状況の下で、やはり予算の話は聞きたくないというふうには思っております。

そこで、私は福島市内でも数値の違いはたくさんあるわけですよ、場所によってね。爆発があった当時、なぜ福島で高いところと低いところがあるのかということで、地域の住民団体の代表と一緒に福島測候所に行って、爆発があった後の風向き、風向についての学習をやりました。そのころ新聞にはまだ発表になっていなかったのですね、そういうデータがね。そうしたら、津島のほうから渡利のほうに来て、信夫山に当たった空気かどうかわかりませんが、そこで気流が違って、そして、この飯坂方面は比較的高いところもあるんですけれども、非常に飯坂の中でも分かれている数値なんですね。

そして、分かれた気流は中通りを二本松方面に流れている風向なんですよ。そういうことまで学習をして、この問題に対応してまいりました。

そこで、結論的なことを申し上げますけれども、私はこのポストの問題については、子どもたちが日ごろそれを見て、やっぱり学習という、あるいは原発事故があったという記憶の一つの資料だと、こういうふうに思います。大人たちが見た場合は、それぞれ原発事故というものについてどのように考え、将来どう思うかということについての道標だというふうに思います。そういう意味で、少し冗長的になるかもしれませんが、私はそういう問いかける塔として、子どもたちや、あるいはそれを見た大人たちに問題意識を問いかける、そういう塔として存続させるというふうにも考えるべきで、数字だけで議論するのは、私には理解できません。

以上です。

○南山総括調整官 ありがとうございます。

では、ほかに。4列目、よろしいですか。すみません、そうしましたら、その後ろ、一番後ろ。ごめんなさい、5列目の方。

○参加者 私の解釈が間違っていたら改めていただきたいんですけども、今日のお話でリアルタイム線量測定システムと可搬型モニタリングポストというのは、測定の目的が違うというふうに私は感じたんですね。

可搬型は空中の線量を測って、リアルタイムというのは人体に与える影響を考慮して線量を出すというふうにお伺い、私、そういうふうに理解したんですけども、だとすると、やはりリアルタイム線量測定システムの機械は、これは撤去してはいけないと思います。

機械によって測定の方法が異なるので、いろいろな角度から測定することが必要かと思えます。なので、そのまま継続していただきたいと思えます。

予算なんですけれども、これはちょっと難しい業界用語はわからないんですけれども、財務省に予算折衝で予算をとっていただくようお願いをします。

○南山総括調整官 ありがとうございます。記録させていただきます。

目的のところはよろしいですね。

○武山監視情報課長 はい。

○南山総括調整官 では、ちょっと1回発言されたので、また時間をとりたいと思えますが、それではその後ろの。

○参加者 仆トロと申します。福島市の渡利から来ました。

お願いが2点あります。

1点目は、線量の説明といいますか、モニタリングポストとリアルタイム線量測定システムと実効線量の関係が非常にわかりにくいので、口頭で説明されないで、きちんと紙に書いて、その三つ、要するに空間空気吸収線量と1cm周辺線量当量と実効線量の関係がどうあるのかということの説明していただきたいと思えます。

先ほどの説明だと、1Gyは1Svだというふうな説明があったんですが、それは多分原子力災害特別措置法と環境放射線モニタリング指針でそうなっているからそういう説明だと思ったんですが、GyをSvに変えても実効線量にはならないんですね。

それで、皆さんが気にしているのは、体にどれだけの害があるかということだと思うので、それは実効線量なので、じゃあ実効線量だとどうなるかということを中心に考える必要があると僕は思えます。

それで、自分で計算したので、間違っているかどうか確認したいので、ちょっと間違っていたら指摘してください。

セシウム134と137のエネルギー量が大体0.6~0.8ミリオンエレクトロンボルトなので、ICRP74の一覧表によりますと、自由空気中の空気カーマからの1cm周辺線量当量への換算係数が1.2。同じく自由空気中の空気カーマから実効線量への換算係数が0.69ですか。それをもとに計算すると、空気吸収線量率、つまりモニタリングポストの値に0.7を掛けると実効線量。

それから、リアルタイム線量測定システムで計測している1cm周辺線量当量に0.6をかけたものが実効線量ということによろしいと思えますけれども、そうすると、今、皆さんが

0.23ということを行っているのは、普段見ているリアルタイムの電光掲示板だと0.38が実効線量の0.23ということになると思うんですね。計算すると。

行政手続上の数値と科学的な数値、実際に人体にダメージを見る実効線量の数字が感覚的に倍も違っているので、そうすると何を言っているのかわからなくなってくると思うんですね。

ですから、この際、何がこんなに大きく違うのかといたら、多分、事故後の混乱でいち早く対応しなきゃいけないので、ちょっと細かな計算を抜かして、1Gy、1Svだというふうにしたんじゃないかと思うんですが、もう7年もたっているのに、いろいろ帰還とかです、自主避難されている方もいますし、これからまた廃炉作業の途中で何か降ってくるかもしれない、対応しなきゃいけないときに、法的な行政手続上の数字と科学的な数字が非常に大きく乖離していると、コミュニケーションが成り立ちにくいと思うので、紙にちゃんと三つの関係を書いていただきたいということと、できたら科学的な、気にしているのは、人体の害だと思うので、科学的な数値に統一していただきたいなというふうに思います。要求はそれ一つで。

2点目の要求は、リアルタイム線量測定システムは、僕は渡利に住んでいるんですが、自分のうちから歩いて10分以内に五、六台あるんですね。すごく多いんですけども、毎日嫌でも目に入ります。

今日、見て来たのは、渡利中学で町内会の運動会をやっているんですが、0.16です。実効線量に合わせて0.098ですね。

これは、除染廃棄物の仮置場というか仮置き場から完全に運び出す。トラックが伊達市のトラックとかも含めて、トラックが福島市内を通過しなくなるというふうな、除染廃棄物を積んだですね、なるまでは置いておいてもらいたいです。ここからトラックがひっくり返ったとか、今でも風の強い日でも運び出しをやっているんですね。ちょっと気になるんですね、やっぱり。こんなに風の強い日にやらなくてもいいのになど、多少気になるので、それはピンポイントでやっぱり見てみたいので、ずっと置いておいて、運び出しが完了するまでは置いておいてもらいたいなと思うんですね。

線量を見るのは目的があると思うんですけども、今あるものは、3.11の後に降ってきた放射性核種がどの程度あるのかの状況を確認するためのものだと思うんですね。これから必要になってくる、運び出しの後に必要になってくるのは、1Fで例えば排気筒が台風で倒れちゃうとかです、デブリの運び出しの最中に落ちちゃうとか、そういうトラ

ブルがあるんですよ。

過去に2013年ですか、8月に、ダストが舞い上がって、1F構内で警報が鳴ったんだけど、地元の人たちにその連絡がいかなくて、南相馬とか、浪江で畑作業をやっている人が被ばくしてしまった。それは南相馬の試験栽培している米から100Bq出ちゃったので、多分それはそのときのトラブルで、廃棄物が散ったと思うんですね。双葉も郡山局も……みたいにモニタリングポストの値が上がっているんで、そういうことも過去にあって、それがたまたまそれで済んだかもしれない。これからもっと大きな事故が起きて、福島のように舞ってくるかもしれない。そのときに、じゃあ、リアルタイムの今の全部必要かというのと、少なくとも僕の歩いている10分以内の範囲のリアルタイムだと、一番高いところで0.16なので、0.01、実効線量で0.01を切っているんで、5台も要らないと思います。歩いてすぐ行けばわかるところにいっぱいあるので、だから、減らしても構わないと思うんですけど、そのかわりお願いなんですけど、かわりに、1Fで事故があったときに、緊急地震速報システムみたいに個人にちゃんと警報が鳴るようにしてもらえないかということなんですけども、1Fの事故の後には、南相馬とかに何か広報とか、防災無線か何かで、地元の人たちも連絡がいくようになったということも、それは東電の対応だったと思うんですけど、あったんですけども、福島にも4時間か5時間ぐらいたてば飛んでくるかもしれないので、自分のうちの近くのリアルタイム線量を見たときに、上がっていたときには既に被ばくしているわけですね。そのときに見ても意味がないんですよ、これからのことを考えると。事故が起きたとき、ちゃんと、例えば携帯電話に鳴ったりすれば、そこから4時間とか5時間の時間があるので、その間にちゃんと、パニックになるかもしれませんが、避難するなり、食料の買い出しをしてうちの中にこもるなり対応ができるので、自分の家の近くの線量が上がったときに慌てても手遅れだし、多分ものすごいパニックになって逃げることができないし、逆に逃げると被ばくしてしまう可能性もあるので、ですから、そういうふうに1Fで何かあったときに、すぐ個人個人に連絡がいくようなシステムを、減らしてもいいので、搬出が終わった後に減らしていただいても構わないので、そういうシステムを構築していただけないかどうか、ちょっと御意見をお伺いしたいんですけども。

以上です。

○南山総括調整官 ありがとうございます。

何点かございますけれども、まず、この数字、単位の話ですね。

○武山監視情報課長 今、おっしゃったとおり、実効線量と1cm線量当量と、それから空

気吸収線量ですね。おっしゃるとおりセシウムだと、例えば周辺線量当量と吸収線量を比べてみると違いがあるとか。あるいは、実効線量と周辺線量当量の違いが出てくるのかというのは、これはそのとおりでございます。いろんな論文が出ていますけれども、そういう形で書いてあります。

僕らのほうで1Gyと1Svがイコールだと言っているのは、おっしゃるとおり法律というか、緊急事態のときはそういう形で換算したりとかしているわけですが、もう一個は、やっぱり測定器の精度の問題があるので、理論的にはおっしゃるとおりなだけで、精度のばらつきとかもあるから、大体そのぐらいだろうということで、1イコール1でいいというふうに考えているところがあります。

それから、住民に警報で知らせるシステムですね。これは一つの考え方であると思います。いろんなところにまた御相談をさせていただければと思います。

○南山総括調整官 ありがとうございます。隣の。

○参加者 すみません。皆さんがお話ししたことに関連するんですが、要望です。

私は今の方のお話を聞くと、地域によってはポストがすごくいっぱいあるところもあるんだなというふうに初めて知ったんですけども、私は増やしてほしいと思うぐらいなんです。

私の実家、その前に、この説明会をなぜ今かというふうに思うんですが、やり方として、私は福島市の南のほうに住んでいて、支所でこのプリントが置いてあって、そのプリントに目をやらなければわからない状態なんです。それで書いて、お話を聞こうと思って書いて窓口を持っていったら、「これは私たちは関係ありません」と言われるんですね。

「え」と思って、当然窓口でわかるものだと思っていたので、驚きました。「どうするんですか」と聞いたら、「直接FAXで申し込んでください」とおっしゃられたんですね。

うちはFAXがあるんでやりましたけど、大方の方は、FAXというものを持っていない方も多分多いと思うし、ホームページも、高齢になると持ってない方のほうが大多数だと思うし、そこで随分違いが出てきてしまうので、本当に困って、知りたいと思った情報もちゃんと行き渡らないので、やり方としてはもっときめ細かくやっぱり相談をして進めていただきたいなと思いました。

私も東京に7年避難してまして、1年前に帰ってきたんですが、私の実家は西のほうにあるんですが、7年たってもいまだに実家の庭に、廊下から1mも離れていないところに、古墳のように丸くどんと緑のシートがかぶさっていて、そのままなんです。近くにはモ

モニタリングポストもありません。近所にいっぱい置いてありますし、4号線を通ってもらいますとわかると思うんですが、あちこちに緑のシートがかぶさっているのが目に見えると思うんです。

ポストの数値がそうになっているからというふうに言われるのも、もうそれしか手だてがないからとも思うんですが、なぜ今かと思うと、やっぱり撤去ありきという感じがするんですね。なぜかってやっぱり、考え過ぎかもしれませんが、オリンピックも近いですし、福島は聖火をスタートさせる地点だというお話もありますし、どうしてそういうふうになるかという、今までの国なり東京電力の誠意のないいろいろな諸々があるわけですよ。さっきのことだけじゃなくて、そういう流れがある中で、福島の人たちは本当に我慢して暮らしているんですね。ですから、本当にそうやって決める方たちは、福島に住んでほしいと思います。

数値とか科学的なことがあると思いますが、暮らしの中でやっぱり感じていることはいっぱいあって、でも、皆さん、福島の方は穏やかなので我慢しています。でも、暮らしてみると、やっぱり皆さん、モニタリングポストを見ながら暮らしているんですよ。学童のところにもありますし、学校の近くにもありますし、まだ0.1以上になって、平均的にそうになっているんですね。もし、それがなくなったら、何を手だてに暮らすのというふうなことなんですよ。食べ物も気をつけていますし。

なぜ増やしてほしいと思うかという、実家の近くにすごくないところもあればあるところもある。……のほうにお墓がうちはあるんですが、広いお墓なんです、両親がなくなったときにそこは環境がよくていいねというふうに思ってセットしたところなんです、お盆に行ってみたら、お墓の周りは全部除染の土で山のように覆われているんですよ。いずれ、そのお寺さんはそこに墓地をつくろうと思ったんだと思うんですが、もうそれが高層マンションのように積み上がっていて、墓地を眺めているような感じなんです、物言わぬ亡くなった方たちですから、物言いませんが、でも、私は亡くなった人たちに対しての冒涇だと思ったんですね。

あの新しい仮置き場なのか、よくわかりませんが、そうやって膨大なエリアに固まっているところもあるんですね、市内には。ぜひ、そういうところに置いてほしいと思いますし、やっぱり原発のところそのものが、大勢の労働者の方々がこの暑い夏も必死で廃炉に向かって働いておられるので、特に大きなこともなく過ぎているわけですが、大もとがおさまっていないので何があるかわかりません。この夏もそうでしたが、自然災害がとん

でもなく大きいわけで、福島は山林は除染しないというふうになっていますよね。もし、大きな台風などが来て、大きな出たら、山からのいろんなものが流れてくるわけですよね。そういうことまで考えてしまうと、そんなとき、何を手だてにどうしたらいいのというふうに思うと、本当にどこまでも福島の人を愚弄しているというか、本当にそういうふうに思います。

ですから、住民感情というものと規制庁の方々の数字的な……というのに、やはりあり得ないものがどうしても出てくると思うんですよね。ですから、本当にそういうふうにしたいのであれば、なぜ、今なのか、お金なのかというようなお話も出ましたが、なぜ、今なのか。どうしてもそうだったら本当に丁寧にきめ細かくわかり合えるようにやってほしいなというふうに思います。

よろしくをお願いします。

○南山総括調整官 ありがとうございます。

ちょっと、そういう意味では、今、御意見として受け止めさせていただくということでよろしいですか。

では、すみません。大分残ってしまいましたけど。よろしいですか。ちょっと順番に回りますので。

○参加者 福島のムバと申しますけど、参加者の皆さんからも汚染となるものがなくなるまでは、モニタリングポストを置いてもらいたいという声がありました。私は、福島第一、第二原発を、やっぱり完全にきれいになるまで、やっぱり続けていくようお願いしたい。

なぜならば、先ほどからもありますように、まだ廃炉作業は調査段階で始まってもないわけですよ。これから何が起きるかもわからないし、あの中には大変な量の毒性の強い放射能が山ほど詰まっています、何かあったらこちらのほうにまた飛んでくるかもしれないという極めて大変な状況であるわけだから、ぜひ、完全に福島第一、第二原発がきれいになるまでは続けるべきだろうということが一つね。

それから、皆さんからも言うておられますように、政府とそれから電力の考え方が、数字と、それからお金ね。これ聞いてがっかりしちゃったね。我々、県民がこの事故を起こしたわけではないんだよね。それを政府や電力に……わけじゃないんだよ。この問題というのは、やっぱり政府の国策もね、それを事業化して……東電、この両者がずさんな放射能対策でね、安全性無視の県民生活無視の中で起きたわけだ、地震をきっかけにね、津波をきっかけに。

そういうふうな立場を考えれば、今日はこの何回も説明に言われたけども、線量が低くなったとかね、お金が云々とか、難しいけどね、がっかりしちゃったね、本当に。そんなことを言っている暇はないんですよ。200万の県民を初め、周辺の各県の人たちに被害が及んでくる。この被害も今日、みんなが言っているように、何年先に顕在化するかわからないでしょう。わからないからね。手切ったとか、腹痛いとは違うんだよ。20年かかる人もいれば、50年かかる人もいれば、10年かかる人もいるわけだよ、出てくるのはね、放射能の被害というのは。そういうことからしたらば、やはり政府、それから電力の皆さんは、やっぱり福島県民のこの生命とこの健康ね、生活、これを本当に安心して取り戻すまで、一緒にやっぱり考えて、一緒に行動して、全力で……いただくようにやらないと、今日の話ではどうもこうも、説明会は遅れている、終わるかどうかわからない……、数字だけ伝わっちゃって、数字はわからない。そんな失礼な話はないでしょう。復興の……リアルタイムのやつの福島県がなくなる、福島市がなくなるんですよ。なくなると全部の、とんでもないことでしょう。

誰かも言われましたように、事故がなくなることを無理やりこの政府が演出しているみたいな形に聞こえちゃう。だから、これは今日もね、参加者の皆さんも真剣にそれを訴えているわけですから、やはり事故の責任者である政府と電力が一緒になって考えていただいて、今日のこの提案については全面的に取りやめて、原発の解体作業が完全に終わるまでは続けるというふうにやり直してもらいたいですよね。そうでないと、とても信用できない。今の政府の政策ですよ。信用できない。こういうふうに思うわけでありますので、よろしくをお願いします。

○南山総括調整官 しっかり検討させていただきます。

一番後ろの。どうぞ、お座りください。

○参加者 すみません。立って話すのが好きなので、百姓の子ですから。

○南山総括調整官 恐縮でございます。座って……。

○参加者 座って、すみません。

私はあまり利口じゃないので、情緒的な面でしかお話しできませんが、やっぱり原発事故に対する受け止め方が根本違うと思うんですよ。国、それから東電、関係者の偉い方々の考え方は、どうも私たちの思いとは全く違うということを感じております。

原発のことだけじゃないんですよ。ほとんど私はそんな気がして、安心・安全というのがむなしく聞こえるんですけどね。

この度、私も孫が生まれました。そのとき何を思ったかといいますと、放射能の影響がないだろうかということ。昨日、毒のようなもの、毒キノコを食べたから今日おなか痛いだねというのはわかりますよ。でも、目に見えないものの中で私たち暮らしているんですよ。

私、自分の子どもを産むときに、お医者さんに学校の教員のいろいろな資格更新のときに、レントゲンを撮影しなくちゃいけないんですよ。「妊娠していますか」ということを真っ先に聞かれます。放射線は悪いですからねって。私たちは日ごろ毎日休みなくその線量の中で暮らしているんですよ。X線とはまた別のものとは思いますが、ただ、国、それから東電の方々、皆さん全てそうなんですけども、その当事者に思いを馳せるという想像力が欠落していると思うんですよ。この度の自然災害もそうなんですけども、当たった人というか当事者だけのものにされてしまっている。

湯野の方のお話に大変共感しましたけれども、あと皆さんの思いも私も同じです。どうかこの事故の後の重み、それから、私たちの重さというか、どんなふうを受け止めて日ごろ暮らしているか。考えてみたら、あのモニタリングポストを撤去するなんていう発想にはならないと思います。

フィンランドのオンカロというところの廃棄物を処理するところをテレビで見ました。私は何げなく深夜のテレビを見たんですよ、意図的じゃなくて何げなくつけたらばね、地下500mほどの穴を掘って、そこに埋めるんだそうです。ところが、その表示、そこに毒物が入っているという証拠を、これからの人たちのために示すためにはどうしたらいいかということで頭をひねった人たちが、ムンクのあの叫びという絵、あれを表示すれば後の人もわかるんじゃないかということ、そのテレビ番組でやっていたんですよ。そういう代物を、私たちはそういう被害を受けてしまったわけですよ。だとしたら、モニタリングポストを撤去するという、そもそもそういう発想にはならないと思いますよ。

もし、政治だとか、それから東電の方の子どもや妻が妊娠、出産ということを考えた場合に、どんなふうを考えるでしょうかね。この原発の福島で住めと言いますか。私はそういう次元で物事を進めていただきたいと思います。あったことをなかったことにはできないって言われた方がいらっしやいましたが、私の次元はかなり低次元ですけども、どうかその辺のところを酌んでいただいて、物事を進めていただければと切に5人のおばあちゃんとしては思っております。どうかよろしく願いいたします。

○南山総括調整官 ありがとうございます。大変申し訳ございません。時間になりました

たが、まだ残っていらっしやいます。もう少しこのまま続けさせていただければと思いますが、あと何人いらっしやいますか。すみません。あと4人、5人。

じゃあ、申し訳ございません。このまま、一番後ろの、大変お待たせしました。

○参加者 私は安全に絶対はないという謙虚な姿勢がまず欲しいのではないかと思います。

今、0.11とか0.13ということですが、これから廃炉作業が50年以上も続くと。そういうことが今、明らかになっているんです。この50年の間、本当に安全に廃炉作業が進むのか、いろんなことで疑問になっているのが私としては思っています。

それから、点在、点地点においても、今、福島市がどうなっているのか。多分認識されているとは思いますが、山菜はまだ出荷できません。食べられません。こしあぶらを見てもみますと、このこしあぶらどの辺まで食べられないか、そういう認識はありますか。

福島県はもちろんのこと、岩手県の平泉、ここで最近……できましたが、ここでも出荷はできないという。そこまで広域に放射能というのは被害を及ぼしているということがわかります。

それから、除染土も全て除染は終わったと言います。しかし、これは今、自宅保管の仮置き場が大部分で、一部それぞれの仮置き場があり、仮置き場に運ぶという作業が行われているかと思えます。私の地域でもようやくそれが始まっておりますので、その過程において、いろんな問題でも出ないとも限りません。現に飯舘においては、この前の大水でフレコンバッグが流された。川内でもありましたよね。もう今の自然災害というのは、本当にすごいです。そうした謙虚な姿勢、これも私は必要だと思います。

除染土はそのような形であるんですが、そのときに、除染をする前に、草や木を削り取りますよね。これ、今どうなっているか。市民の方、多くにこの話をしてもなかなかわからないんですよ。

先日、町内会での環境衛生委員会の研修というのがありまして、私もその中に参加しました。まだ、焼却されないまま、あるところに保管してあると言うんですよ。これも、あぶくまクリーンセンターで今、焼却しつつあるんです。今後何年間かかるのか。3年はかかるでしょう。このような形で言っています。

まずね、そんな形で除染のときに取った草や木がどうなっているかなんてわかっていない人がほとんどなんですよ。これも、あぶくまとあらかわのクリーンセンターが二つあるんですが、これだって、あぶくまで捨てにいくというのは本当にいないと思うんです。これも運び出さなきゃならないですよ。しかし、8,000Bq以上ありますと、国のほうでこ

れは処理するという事ですよ。けど、その施設は国のほうでは全然進んでいない。ですから、それぞれの市町村において持っているということになっているので、福島市の場合には金沢の最終処分場のところに8,000Bq以上はまだ保管してあるという。これも、やがては、今のところは浜のほうに中間処理施設ですか、できるから、それを運ぶ。その作業により事故がないとは絶対言えないと思います。こうした危険性も我々は常に身近なところにあるという実態があるわけなんですね。

ですから、安全というものに対して、いろんなチャンネルがあったほうがいいと思えますし、これはお金で考えられる問題ではないと思うんです。絶対安全だと言っていたら、原発がこのような形で事故を起こしたわけですから、そこから私たちは謙虚に反省して、安全策をとらなきゃならないのかなと思います。

どこかの国の総裁選やっていますが、正直というのは焦点になるよりも、こんな地域もあるわけですよ。これから我々はもっともっと謙虚になって、物事をみんなで見たいとい、そのような趣旨でお願いしたいと思います。

以上です。

○南山総括調整官 ありがとうございます。

では、先ほど手を挙げていただいた、すみません。

まだ、一言もしゃべっていらっしゃらない方、一番前の方。

○参加者 子どもたちのいのちを守る・ふくしまの絆と申します。

震災の子どもたち、放射能から守るためずっと活動してきた中で、政府が対応してきたことは、私たちとしては納得いかないことばかりでした。その中の一つとして、今回の問題も出てきたかなと思っています。

子どもたちの命を脅かすのは放射能だけではないです。国が行っていること全てが命を脅かしていると私は思っているんです。それから守る一つの活動として、せめて放射能のことは隠さないで、未来の子どもたちに対して胸を張って言えるような対策をとっていただきたいなと思っています。

先ほどの方もおっしゃっていたんですけど、数字のことで言ったら負けます。というのは、科学者と私たち素人が張り合ったら勝てるはずないんです。でも、人間はその数字の問題で解決できないものがたくさんあると私は思っています。震災後すぐに影響が出た子どもたちのお母さんがどれほどの思いで避難したか。それを科学的な根拠がないからといって切り捨ててきた日本政府が行ったこと、そういう反省もないままにまた同じような

ことを行うのかなと思って、本当にながっかりしております。

県内のことだけでなく、県外のことも含めて考えると、福島は何でもない、大丈夫であれば、県外の子も全部そういうふうになるんだろうと思っているんですが、先ほどごみの焼却の問題を話されていましたけれども、県外へ持って行って焼却する計画が、がれきの問題だけでなく、これからもあるというのを、この間広島に行って聞いてきました。広島では新しく焼却炉をつくっている。そこは除染で出たごみを燃やしたんだよと言いました。住民の方は反対していました。

今、福島だけで燃やすんじゃなくて、よ所に設けて、全国にばらまいて、がれきと同じように、全国広く薄くばらまいて、健康被害は調査をしても、全国どこでも同じ数字が出るから、放射能の影響はなかったということをするために行っているのかなと思っています。

規制庁が原発を再稼働するための下準備を着々としているんだなと思っています。

福島県民の人たちはおとなしい方たちばかりです。声を上げない。でも、今日こうやって来た参加されている方たちは、本当にいろんな思いで、普段は恐らく身近な人と話せる人、誰もいないようなそういう人たちもここに来ていると思います。どんな思いで生活しているか。やっとなら、ああ、同じ思いの人たちがいるなと思って発言されているんだと思います。そういう福島状況を、ここに来られた方たちは酌んで帰っていただきたいなと思います。

リアルタイムシステムのことは、本当にその氷山の一角だと私は思っていますので、これを認めてしまったら、次々に行われるのかなと、なかったことにするために、8,000Bq以下のものは公共事業に使うということで、全国にこれをばらまくんでしょう。そうになると、日本だけの問題じゃなくて、世界中の8,000Bq以下のものも放射性物質は日本に持っていけば、簡単に処分ができるということで、もう既に海外でその計画まで進んでいるということです。だから、福島市だけの問題ではない、福島県だけの問題ではない、日本全国、問題は広がると思っています。そういう、本当に世界的に見て、今のことを隠せばいいという問題ではないと思います。

2020年のオリンピック誘致のときには、安倍首相が福島県の健康被害、過去、現在、未来においてないと言い切って誘致をしました。アンダーコントロールされていると、汚染水は。そうですか。今、トリチウム汚染水の問題、誤算をしているのではないんですか。薄めれば大丈夫なんですね。であれば、汚染土も全部薄めて全国にばらまけば何の問題も

ないですね。そういうことをやるということでもよろしいでしょうか。

私たちは、被ばく者として二度とこのようなことを起こしてはいけないということを訴え続けるしかないなと思っています。ここでいろんな意見を聞いたことを、本当に国に持ち帰って、よく考えていただきたいと思います。

以上です。

○南山総括調整官 ありがとうございます。御意見として記録させていただきます。

3列目の方です。こちらの、よろしいですか。

○参加者 すみません。超個人的な質問です。

私は農業をやっています。福島市の果樹除染の第1号として畑の除染をしてもらいました。その除染土は畑の真ん中に630袋フレコンバッグが土の中に埋めてありますね。

そのときの約束は、3年たったら何もできない土地ができ上っているの、撤去しますという約束で土地を除染してもらいました。それはいまだに約束は守られていなくて、いまだに何もできない土地が600坪あります。

先ほどの説明で、2020年の3月までに学校の校庭や幼稚園や保育園から汚染土を撤去する。その住宅やその他、汚染土の置かれているところは、2021年の3月までに全て撤去するというような説明があったんですけど、それでは、2021年4月ぐらいに新しい果樹の苗を買って待っていて大丈夫でしょうか。

もう一つ、廃炉作業が完了するまで、私はやっぱりモニタリングポストは置いておいてもらいたいと思っています。

質問の答え、よろしくをお願いします。

○南山総括調整官 ありがとうございます。

質問の汚染土の話、よろしいですか。

○武山監視情報課長 これは、実は計画は市で計画しているので、ちょっと我々のほうで実は「そうだ」という、我々は市からそういうふうに聞いているというだけなので、今言った果樹の苗を植えていいかどうかというのは、ちょっと我々のほうから回答ができないんですね。

市のほうにもう一回問い合わせいただくしかないです。

○参加者 すみません。その32年度の末までに仮置場から先ほどの中間貯蔵施設へ移動して、それで32年度の末までにモニタリングポストの数を減らす予定ですみたいな説明だったんじゃないかなと思って、お聞きしました。

○武山監視情報課長 私が言ったのは、たしか、まず、現場保管されているわけですよね。だから、それは32年度末までに、まず仮置場に集約しますと我々は聞いているんです、市のほうからですね。だから、中間貯蔵施設はその先だということで、実は我々のリアルタイム線量測定システムを撤去するかという計画の考え方を整理するに当たっては、実は除去土壌に関して言うと、実は必ずしもリアルタイム線量測定システムでそれを見ているわけではないと思っていて、別にサーベイメーターで見るとかですね、要するに、そういう除去土壌としては別に手当がされているという考え方です。

したがって、リアルタイム線量測定システムと除去土壌とは切り離して考えようかなと思っていただけです。ところが、皆さんの御意見で、確かにそういうことになっているかもしれないけれども、まだ土が運ばれたりとかして、いろいろと途中巷に落ちたりもするかもしれないということがあるということで、不安に思われているので、リアルタイム線量測定システムは残してほしいという御意見だというふうに捉えているわけですが、そういう意味からすると、今言った土をいつ持っていくかということについては、ちょっと我々のほうでは、中間貯蔵施設にいつ持っていくかというのは環境省のほうで考えなきゃいけないところもあるんですけれども、現場保管の状況から解消するというのは市のほうの立場でやられると思いますので、ちょっと我々のほうでいつまでというのはなかなか確約はできないんですけれども、むしろ福島市さんのほうの除染の担当部署のほうに問い合わせさせていただくということになると思います。

○南山総括調整官 すみません。そういう意味で、意見を十分踏まえた除却の議論をされていますし、対応していきたいということだと考えています。じゃあ、すみません。

○参加者 福島市内に住むものです。

福島市民の思いというのは、恐らくこのような短時間で語り尽くせるものではないというふうに思うんですね。

ですから、規制庁が見直しする話、撤去という方針を出して意見を聞くというのは、私は順序が逆じゃないかなというふうに思います。もっと広範な福島市民の声を聞いて、その上で判断していくべきものじゃないかなというふうに最初に申し上げたいと思います。

それと、今日の説明で第一原発の現状についての考え方が簡単に書いてありますが、私はこれは私たちが考える認識とはほど遠いものだなというふうに思います。

原発事故は現在進行中だということだと思っんですね。事故は全く収束していませんし、現時点で事故原因の解明や究明すら行われていないわけですから、そこからどうやっ

て収束させるかというのは、対策が出てこないのは当然だと思うんですね。

事故が起きている最中に、線量計を撤去するなんていうことはあり得ないことだというふうに私は思っています。

それから、この線量計について言いますと、実は原発事故が起きたときに、線量計はありませんでした。それはなぜかと突き詰めて考えると、やはり原発が安全だということで、そのような対策は全く頭になかったんだろうと思います。

しかし、原発事故が起きたときに、浪江の町民はSPEEDIも知らされないで、訳がわからないで線量の高いところに連れていかれましたし、飯館の、隣の飯館の方は、「大丈夫」だと言われて、1カ月いて、それから避難命令を受けたわけですね。

福島市民の我々も高い線量の中で、しかしよくわからないまま水を供給するのに並んで、後で非常に怖い思いをみんなしたわけですね。

こういう見えない放射能に対する恐怖、それを見えるようにしたのが線量計だったんですよ。そのことを、なぜ今になって見えないようにするのかと。これは誰も納得できないということなんです。

いろいろ予算とかいろいろ理由はあるんでしょうけれども、国は、やはり国と東京電力は、加害者としての自覚と反省をこの先もずっと持ってもらいたいと思いますし、それから、二度とこういう事故を起こさないというためにも線量計は必要だと思いますし、そして、もしも皆さんがこういうことを強行するようになるのであれば、国に対する県民の信頼は根本から失われるということで、ぜひ再考をお願いしたいということを申し上げて意見といたします。回答要りません。

○南山総括調整官 ありがとうございます。

最後に。

○参加者 皆さんの意見のほうで、ほぼ多分私の思いは言い尽くしていると思っているんですけども、私は将来のことも含めて、ご提示申し上げたいと思うのは、まず事実として、これが発生するんです。阿武隈山系というか、浜通りも含めて、復興計画の中で400基の風力発電の予定がございます、福島県は。私は狂気の沙汰だと思っているんですけども、高線量汚染地域の尾根上に風力発電をつくろうとしています。これは多分事実上、進んでいくと思いますので、仮に400基の風力発電ができると、1,000haぐらいの山林が削られます。そうすると、その際に、当然、放射性物質は福島に向かってくる可能性すらあります。ですので、当然、モニタリングポストは必要なんですけど、今、福島市では、福島市

だけではないですね、県内では、定時降下物、放射性物質が落っこってきているのをサンプリングしています。それを逆に私はもっと設置箇所数を増やすべきだと思います。

それから、これは感覚的な話としてね、先ほど来、出ていますけれども、原発って本当に安全なんですか。燃料集合体が1、2、3の3基の原子力発電所の燃料取りに入っています。特に1,600体ぐらいあるでしょう。これは何十年かかるかわかりませんが、こういうので建屋壊れないんですかというのは、福島県民みんな同じですよ。建屋壊れて、ひっくり返ったらどうするんですか。燃料集合体が露出したら。そんなの、誰も手をつけられなくなっちゃうじゃないですか。そういうことを、実は福島県民はおそれているんです。そういう状況なので、撤去は言語道断です。継続してください。

以上です。

○南山総括調整官 ありがとうございます。記録させていただきますが。

大変恐縮でございます。時間があればもっと話したいという方もいらっしゃると思いますが、30分近く延長させていただいて、こういう状況になっています。

大変恐縮でございますが、ちょっと会場の都合もございますので、ここでこの場につきましても、締めさせていただきたいと思いますが、よろしゅうございますでしょうか。

恐縮でございます。それでは、本日の説明会はこれにて締めさせていただきます。ありがとうございました。